



安達真太郎
【油彩画】 婦人像

鹿児島市で育ち、フェルメールなどのオランダ静物画派の画風を目指した安達真太郎(1906~1988)の作品です。人物の表情から見た目だけでなく、内面までも描いているような作品です。



海老原喜之助筆 顔
【デッサン】

海老原喜之介(1904~1970)は、鹿児島市に生まれ、1923(大正12)年にフランスに留学し、藤田嗣治に師事。鹿児島の代表的な美術展である「南日本美術展」を、吉井淳二とともに創設し、郷土美術の振興に尽力した画家で、多くのデッサンを残し、その中には顔だけを描いたものが多くあります。



瀬尾鶴汀筆 南洲先生真像
【卷子】

瀬尾鶴汀(生没年不詳)は、大坂詰めの薩摩藩士で、日本画家瀬尾南海の祖父です。島津斉彬の絵のお相手をし、西郷隆盛や桐野利秋らにも絵を教えたと言われます。この作品は、西郷に直接会った絵師が描いた貴重な西郷の姿と言えます。

特集 黎明館企画展

令和4年
3月15日(土) - 5月22日(日)
会場：黎明館3階 企画展示室

かお 顔

和田英作ほか寄書
【掛軸】



和田英作(1874~1959)は、垂水市に生まれ、黒田清輝や藤島武二らと共に、日本近代洋画のアカデミズムの確立に貢献しました。この個性あふれる似顔絵は、和田の人柄を伝えるユーモラスな作品です。

木造菩薩形(宝冠釈迦如来) 坐像
鎌倉時代後期

本像は、禅宗寺院で祀られる「宝冠釈迦如来像」(毘盧舍那仏)とみられます。実人的で洗練された作風で穏やかな表情をしています。



神舞面(神楽面)
霧島市止上神社では、大和朝廷に征服された卑人族の御霊の祟りを鎮めるために、慶長(1596~1615)の頃まで、「王の神幸」という祭礼で使用されていた面です。

新納忠之介(1868~1954)は、鹿児島市に生まれ、国宝修理に専念し、2000点以上の仏像・神像などの修理にあたりました。この作品は、小盆に能面を彫刻したもので、周囲は朱漆塗り、彫刻の部分には岩絵の具が施されています。

新納忠之介作 能面彫刻小盆



神舞面(神楽面) 伊佐市

各神社で、自由な表現で誇張され、独自に作られたために、神社ごとの特徴が見られます。



能面(女面)

特別な表情を出さず、様式化された美しさは、妥協を許さない厳しさも感じられます。

と めん 面

— その姿と想い —

顔は、絵に描かれたり、彫刻として作られたりし、面は、顔に付けて踊り、その表情で人々の心をとらえてきました。特別な表情はないように見える能の面も、祈りを捧げる仏像の顔も、表情はそれぞれ異なります。本企画展では、様々な作品をとおして、表現された顔や面の魅力を紹介します。



田の神面 伊佐市菱刈町

田の神舞(神舞の一種)の際に使用されるもので、たんこぶをつけたり、口をすばめたりした「道化型」様式の面です。

関連イベント

■ 学芸講座(展示解説講座)「顔と面」

日時：令和4年4月16日(土)13:30~15:00
講師：黎明館学芸課長 切原勇人
会場：黎明館3階 講座室

※ 学芸講座は、事前申込制です。(詳細はホームページまたはチラシをご覧ください。)

■ 展示解説

日時：3月26日(土)、4月17日(日)、5月7日(土)
いずれも13:30~14:10
会場：黎明館3階 企画展示室

※ 要入館料、事前申込不要

※ 学芸講座終了後、展示解説はありません。
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催期間や関連イベントを変更または中止にする場合があります。